

4月9日（月）着任式挨拶

「素直な人」

まず、今日の着任式のために、昨日、日曜日に関わらず会場の準備をしてくれたバレー部とバスケット部の皆さんに感謝します。どうもありがとう。

さて、今、教頭先生にご紹介いただいた狩野博臣と言います。もしかしたら私と同じ苗字の人がここにいるかもしれません。私の出身は島原市ですが、父が南島原市西有家町ですので、本家は西有家町の龍石というところにあります。ですから私には南島原市の血が流れています。そのような縁もあって、この4月から口加高校でお世話になることになりました。よろしくをお願いします。

4月2日に緊張しながら初めて校長室に入ったのですが、心が温かくなるような、嬉しいことがありました。一つは校長室の机の上に手書きのメッセージが添えられた綺麗な花を飾っていただいていたこと。そして、スクールキャラクターのロカロちゃんの絵とともに「大歓迎 狩野校長先生 ようこそ口加高校へ！」と書かれた紙を置いていただいていたこと。「気持ち」や「心」は目に見えませんが、こうやってことばや形にさせていただくと、迎えていただいた方々のお気持ちが伝わってくるんですね。

もう一つ、先生方からのメッセージが机に置かれていたんです。そこには「私たちの最大の自慢は生徒達です。」と書いてありました。長崎県内に56校の県立高校がありますが、「おたくの学校の自慢は何ですか。」と問われて即座に「私たちの最大の自慢は生徒達です。」と答える学校はそうそうないと思います。そんな学校に勤めることができるのは校長冥利に尽きます。

先生方のメッセージはこう続きます。「口加の生徒達のピュアなハートと素直さは県下一です。」これは皆さんへの最高の褒め言葉だと思います。大谷翔平選手が大リーグのエンジェルスで大活躍しています。日本ハム時代の監督である栗山監督が、翔平は誰よりも素直な選手だとおっしゃっていたのを思い出しました。プロスポーツでも、勉強でも、部活動でも、ビジネスの世界でも伸びる人の共通点は「素直さ」を持っていることです。「素直さ」とは、なんでも「はい、はい」と聞くということではありません。「素直さ」とは、他人のすごさ、優秀さ、うまさを認めて、その人から学ぶことができる資質のことです。まず他人のすごさを認められない人は伸びません。例えば部活動をしていて「あいつのプレーはたいしたことなか、おいの方が上手」とか、勉強でも「あいつは勉強ばかりしよっけん、成績のよかとは当たり前たい。」と言っているうちは伸びないということです。「素直な人」とは、自分より優れた人と自分とは何が

違うのかを謙虚に学び、研究して、自分のものにしていく人のことを言うんです。だから伸びるんです。「素直な人」は、先生や親など大人の教えや言葉が真っ直ぐに入ってきて吸収するんです。だから伸びるんです。

もう一度先生方のメッセージを繰り返します。「口加の生徒たちのピュアなハートと素直さは県下一です。」だから皆さんはまだまだ伸びるんです。私もいくつになっても「素直な人」でありたいと思っています。